

## 研究者の専門分野と取得学位名称の関係

### Relationship between the degree and discipline of researchers

学籍番号：201421592

氏名：田中 恭平

Kyohei TANAKA

本研究は研究者の取得学位と実際に従事している専門分野との関係の提示を目指す。

学術活動をめぐる環境変化に対応すべく、日本でもさまざまな高等教育改革が実施されてきた。研究者の能力証明書としての役割を持つ学位に関する制度も、そうした流れの中で改革されている。学位規則上で限定列举される形態であった学位は、1991年の制度改革に伴い、各大学の裁量に基づき学位に専攻分野名称を付記する形態に改められた。しかし、その影響で専攻分野名称が多様化し、高等教育の質保証の観点から問題があるとも指摘される。このように、学位制度の在り方は現在も盛んに議論されているといえよう。

そこで本研究では、Researchmap から研究者の学位に付記する専攻分野名称（専攻分野名称）および、研究者の実際の専門分野（実分野）の情報を収集し、両者の差異を明らかにしていく。分析は複数の多変量解析手法（相関分析・クラスター分析・主成分分析）を用いた。そのうえで、補助的にネットワーク分析も利用した。

その結果、専攻分野名称と実分野の関係性は、学問領域との対応関係の有無、学際・複合分野的な性質の強さという二つの枠組みで整理できることが提示できた。まず、専攻分野名称は特定の学問領域のいずれかと強い対応関係を有するものが多く存在することが明らかになった。その一方で、「学術」などのように特定の学問領域と対応関係がない名称も存在することが明らかになった。さらに、理工系分野と親和性の高い専攻分野名称が少ないことも示された。対照的に、人社系・総合系・生物系分野と親和性の高い名称や、特定の学問分野と親和性を有しない専攻分野名称が、学位制度改革後に急増していることも示唆された。そして、学際・複合分野的分野への専攻分野名称の付与方法は、統一した基準が存在しないことも示唆される結果となった。

このように、本研究によって研究者の学位と専門分野の関係の概略的な枠組みを提示できた。今後は学位論文の書誌事項や所属学協会など、より多様な視点から実分野を定義することによって、本研究で得られた成果を深化できるだろう。

研究指導教員：芳鐘 冬樹

副研究指導教員：高久 雅生